



人間の体の中はどうなっているの

体の中を見よう

わたしたち人間の体は、皮ふでおおわれていますが、体の中には、運動をしたり、体を支えたり、食べ物を体に取り入れたりするための、いろいろなしくみがあります。

皮ふの下には「筋肉」があります。のびたり縮んだりして、体を動かすための力を出します。「骨」は、体を支えています。骨についている筋肉が、のび縮みして骨を動かす、人間は、歩いたり走ったりなどの運動ができます。

次は内臓です。胸には息をするための「肺」や、血を体にするための「心臓」があります。「胃」や「腸」や「肝臓」など、食べた物を、体の栄養に変えるはたらきをするものもあります。

体じゅうにはりめぐらされているのは

「血管」は、体じゅうにはりめぐらされています。心臓を出た血は、血管を通り、体に大切な物を運んだあと、心臓にもどります。

人間は、見たり、聞いたりしたり、熱い、冷たい、痛いなどを感じたりすることができ、これは、神経が体じゅうにはりめぐらされているため、神経は脳につながっており、脳はいろいろなものを感じ取ったり、考えたり、命令を出したりしています。

体の中には、このほかに、おしっこをつくる「腎臓」など、数えきれないくらいの部品がつまっており、わたしたち人間は生きていけるのです。(監修・保志 宏)

